

目的 静岡県西部の磐田郡T町の調査成績は、同県東部のN町、A町、T町よりも甘味、塩味の嗜好濃度が高く、その濃度の高い人ほど間食による摂取エネルギーも高くなっていた。今回は、T町に隣接したH市内において、その傾向を確かめるため同様の調査を行った。

方法 H市内に居住する20歳代～60歳代の農業協同組合婦人部に属する主婦185名。味覚検査として、甘味は牛乳かんを用いて甘味閾値、甘味嗜好濃度を調べ、高野豆腐を用いて煮物甘味嗜好濃度を調べた。塩味は食塩水で塩味閾値を調べ、みそ汁で塩味嗜好濃度を調べた。間食については、間食の摂り方、その種類と分量を調べ、味の好み、味付けについての注意、食卓と間食との関係などをアンケート調査した。調査成績は、年代別、職業別、肥満指数別、牛乳かん甘味の閾値別、牛乳かん甘味の嗜好濃度別、高野豆腐煮物の甘味嗜好濃度別、食塩水塩味の閾値別、みそ汁の塩味嗜好濃度別、間食エネルギー摂取別に集計し、多角的に検討した。このほか調味料としての砂糖、醤油の摂取量も調べた。

結果 牛乳かん甘味閾値 $44 \pm 0.7\%$ 、牛乳かん甘味の嗜好濃度 $15.6 \pm 5.2\%$ 、高野豆腐煮物甘味嗜好濃度 $14.4 \pm 4.4\%$ 、食塩水塩味閾値 $0.21 \pm 0.04\%$ 、みそ汁塩味嗜好濃度 $1.2 \pm 0.3\%$ 、間食エネルギー $368 \pm 228 \text{ Kcal/day}$ 、間食からのシヨ糖摂取量 $24.1 \pm 16.4 \text{ g}$ であった。この成績は前年調査したT町の成績（消費者の会、農業推進協議会の101名、同年令の主婦）と検討した結果、統計的に有意の差は認められなかった。これにより両地区対象者の甘味、塩味に対する嗜好が近似しており、間食摂取状況にも共通点が認められた。